

学校教育と連携した生態系保全

都市的地域

タカツキトウブノウクウカンマモロウカイ（オオサカフタカツキシ）

高槻東部農空間守ろう会（大阪府高槻市）

- 大阪府高槻市の東部に位置し、稲作のほか、市街地への近接性を活かした朝市等も活発に行われている。
- 地元農家と自治会の協働による良好な営農環境の保全を通じて、多面的機能を有する農地と都市との共存を目的として学校と連携した地元小学生の農業体験のほか、水源である淀川河川敷のヨシ群を題材として生態系や水質保全について小学生に伝えている。
- 特定外来生物（ナガエツルノゲイトウ、オオバナミズキンバイ）の駆除に努める。

【地区概要】

・取組面積

39.89ha(田38.06ha、畑1.83ha)

・資源量

開水路15.2km、農道3.7km

・主な構成員

農業者、自治会、小学校等

・交付金 1,178,400円(R2年度)

[農地維持支払]

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化や担い手不足により農業用施設の維持管理や地域保全の負担が増加している。
- 良好な営農環境の維持等について、都市住民の理解を得ることが課題となっている。
- 特定外来生物が水路等に繁茂するようになっている。

地域の状況



取組内容

- 地区内小学校において、水路・ため池の生き物調査や水質調査等の調べ学習への協力や、学習田・じゃが芋掘りなどの体験を通して、農業に親しむ機会を作っている。
- 水路・樋門周辺に繁茂する外来生物を、市の学芸員や市民ボランティアとともに除去作業を月2回ペースで行った。

田植え体験



取組の効果

- 地元農家と自治会の連携による水路の泥上げや草刈活動等により、営農環境が改善され、農地や水路の保全が図られた。
- 特定外来生物の定期的な見回り・除草作業を行うとともに除草シートを被膜することにより拡散を抑止し、生態系や農業への被害の低減につながっている。

外来生物駆除風景

